

(様式1)

自己評価票

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者にとって、第2の自宅として、その人らしく住むことができるようにを心がけ、理念を「生き生きと穏やかに」と掲げている。	○	掲げた理念は、ホーム立上げ時、施設長、管理者が掲げたものだが、3年半経ち、スタッフ全員が考える理念の構築を図っていきたい。
2	○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関を入った真正面の壁に利用者に筆で書いていただいたものを掲げいつでも見ることができるようにしている。スタッフはケース会議時、時々、唱え、日々のケアの心構えとしている。	○	「生き生きと穏やかに」は、利用者一人一人にとってどうということなのか、ケアの根拠として日々のケアに生かしていきたい。
3	○ 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域の中で孤立したホームではなく、地域の社会の中のホームであると認識し、ご家族や、地域の方々へ理解していただけるよう広報誌を発行したり、町内の行事への参加も行った。	○	・平成17年に第1回目の広報を作成し、沼館、城下地区に回覧していただいた。第2回目の発行を考えていきたい。 ・町内老人クラブの定例会に初めて参加した。今後続けていきたい。
2. 地域との支えあい				
4	○ 隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	同町内より4名のスタッフが働きにきて下さっている。内2名は老人クラブの会員であり、月1回の定例会に誘いがあり、6月2名の利用者が参加した。利用者2名は楽しかったと話されている。行事時、町内からボランティア3,4名参加して下さったり、当園内での音楽ライブに町内から見にこられたり交流している。管理者はキャラバンメイトの講習受講済である。	○	「町内のひとりが認知症になられたのでは」という相談を受け、運営推進会議にて当事者についてと今後認知症が疑われる場合、町内としてホームとしての情報交換や対応について話し合った。今後、協力体制を構築していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	○ 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	○	環境、ケア内容等、利用者にとって暮らしやすいかどうか、外部の方の評価を知り、改善に努めていきたい。
6	○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	○	・町内と合同で流しソーメン大会を行うことができた。今後とも継続できる行事等考えていきたい。 ・老人クラブ定例会の参加のお誘いを受け参加した。今後も続けていきたい。
7	○ 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	○	ビデオは「認知症介護について」「キャラバンメイト用の内容」の2本だけ借りてきたが、今後とも色々なビデオをお借りし、スタッフのスキルアップに努めたい。
8	○ 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	○	今後、講習の機会を見つけて相談あった場合、対応できるようにしていきたい。
9	○ 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	○	スタッフ同士啓蒙し合い、防止に努めている。故意ではなく、偶然そのような行為に類似したケアあった場合、ヒヤリハットを提出し、全員で気をつけるよう努めている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	○ 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	○	今後、ご家族、ご利用者との契約内容等について意見の食い違いがみられた場合、誠実に対応していきたい。
11	○ 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	○	今後とも利用者の声を少しでも多く吸収することに、スタッフ全員努めたい。
12	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	○	「音寿園だより」はご家族に好評で、2枚希望される方もあられる。継続していきたい。職員の異動についての報告はしていない為、今後考えていきたい。
13	○ 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	○	アンケート調査を配布し、ご意見を書いていただいたが、要望苦情等無かった。今後ともご家族とのコミュニケーションを深め、ニーズを探っていきたい。
14	○ 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	○	継続してスタッフの意見を大事にしていきたい。管理者に遠慮している面見られる時もある為、スーパーバイザーを取り入れていきたい。
15	○ 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	○	今後ともスタッフの勤務体制は、平等にお互い様という考え方で調整に努めていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16	○ 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は少ない方ではと思う、が、日頃より誰が担当しても同じケアをすることを心がけている。特定のスタッフが離職することで大きなダメージやストレスを受けられないよう様子観察しフォローしている。	○	スタッフと利用者の関わりも観察し、親密度等知り、是々非々にスタッフの対応をアドバイスできるよう努める。
5. 人材の育成と支援				
17	○ 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	講習に出たいというスタッフが多く、平等に機会を与えスキルアップにつなげている。講習受講後、ケース会議にて発表してもらい共有できるようにしている。	○	段階的講習には、スタッフが意欲が持てるよう受講を勧めている。
18	○ 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	八戸グループホーム協会の理事をさせていただき、理事会への出席は非常に勉強になっている。グループホーム同士のスタッフの実習等の交流はしていないが、管理者同士情報の交換を行えるホームがある。	○	行事を合同で行う等、地域の交流の一環として取り組みたいと考えるが、お互いグループホームの事情もあり、難しい傾向もある。
19	○ 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	日頃の行事(ライブ等)と一緒に楽しむこともスタッフのストレス軽減に役立てていただいている。年2回親睦会を開き、スタッフ同士のつながりを強めている。	○	スタッフの年令50代、60代多い為、体を休めながら良い状態で働けるようスケジュール等組んでいる。
20	○ 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	園内研修に講師を招いたり、講習を受けたり、少しでも知識を持てるよう環境を整えている。時間的、経済的にフォローしている。	○	働きながら学べる楽しさを持ってもらえるよう、スタッフへ働きかけていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21 ○ 初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	何を困られているのか、よく傾聴し、押し付けることなく、情報を提供している。疑問については、常に誠実な態度で接し、信頼関係を結ぶよう勤めている。	○	何でも相談して下さるよう、園からの連絡(通院等)をもっとこまめにするよう、管理者として不十分ではと思うところもあり、小さなことでも情報発信に努める。
22 ○ 初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族の求めているのはどういう形なのか、早く把握し、他施設関係へご紹介等勤めている。	○	現在の状態を見極め、サービスを必要とされているかどうかから考え、より良い生活をコーディネートできるようアドバイスできればと考える。
23 ○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	今までの生活の継続に近づける為、馴染みの家具や衣類、備品等持参をすすめ、環境の変化を最小限にしたいよう、ご家族に相談している。	○	本人の納得を得て、利用を勧められたご家族は割りと少ないため、混乱みられる時多い。とにかく不安なところではなく、安心できるところと理解していただくよう努めている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24 ○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の歩まれてきた人生経験や、得意とするもの等大事にし、人生の先輩ということを忘れず学んだり、時には支えられたり一緒に歩んでいく態度を忘れずにしている。	○	その人らしさにもつながるが、得意とするものを教えていただき、利用者の意欲も引き出せるよう努めている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に意見を聞きながら、二人三脚で利用者をささえるよう心がけている。	○	妄想等みられる時、内容、経過、対応の仕方等お聞きし、本人の納得できる方法を模索している。
26	○ 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者のご家族の関係は様々である。一方的に決めず、どのような関係を結ばれているか観察しお聞きし、支障のないよう良い関係が築けるよう支援している。	○	ご家族や利用者の言葉から推察し、ご家庭に合った良い関係を築けるよう支援していく。
27	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の訴えを一番大事にし、今まで関係を持たれてきた人、場所、物が身近なものであることを認識できるよう支援していく。	○	会話の中で馴染みの人、場所、物を知り、希望ある時は同行したり、電話したりいつでも身近にあることを分かっていたいく。
28	○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者の性格や生活歴、環境等全く異なるため、とかく、トラブルになりやすいところがあるため、仲介し良い関係ができるよう努めている。	○	利用者同士の会話をよく聞き、良い関係が築けているか観察し、うまくいっていない時は、なぜなのか、どのようなことなのか考え、関係調整に努める。
29	○ 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院等で退所になられた利用者のご家族に介護認定再更新の手続きに依頼があり施行した。退所後、園から積極的に関わりを持つということとはしていない。	○	退所後は、関係が遠くなりお見舞いに伺うことをしていない。関係を持続できるよう努力していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	○	本人の思いが不可能になる場合、寄り添い納得できる方法を見つけるようにしているが、難しい場面もある。より深く理解することに努めていきたい。
31	○ これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	○	ご家族にお聞きしても隠しておきたい内容もあり、正確に把握しにくいところもある。プライバシーを大事にし暮らされてきた。
32	○ 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	○	何気ない会話の中から利用者が、表に出にくい面を保っていることにより、どのような状態なのか知ることに努める。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	○	日頃本人やご家族からの要望を聞き、ケアプランに生かしている。試してみても不都合の時もあるが、試行錯誤を重ねより良いケアプランを作るよう心がけている。
34	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	○	まだ利用者本位のケアプランに近づいていないように見える点があるため、今後スタッフの意見を取り入れながら計画を作成する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35	○ 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別にケース記録に記入している。その記録を元に状況把握し、次のケアへつなげたり、病状記録を作成したり、ケアプランの作成に役立てている。	○	業務の中で記録することは、時間的にゆとりがないが、利用者の全体像の観察であるので継続していく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の面会、外出、外泊等、ご家族とであれば自由にいただいている。通院は原則として家族対応であるが、ご家族の都合により依頼あれば施行している。	○	訪問診療(内科、歯科)が入っている。他病院が主治医の場合でも診療を受け治療し健康に気をつけている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	直接利用者が町内の民生委員や警察等に支援を受けたことはないが、ボランティアについては、行事時町内の方々に協力をお願いしている。	○	行事時、スタッフ以外のボランティアの方々との触れ合いを好まれるため、いつでも受け入れる体制を整えている。又、いつでも協力をお願いしている。幅広く依頼していきたい。
38	○ 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	特養に入所希望あった時、協力体制を構築し話し合い、サービス利用へ移ることを支援した。	○	今後、要介護度が進み、当園では無理の状態の場合、又、ご家族が特養入所を選んだ場合、スムーズに利用できるよう相談員等話し合っておく。
39	○ 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとのつながりは運営推進会議への出席、スタッフビデオの借り、講習のみである。	○	情報提供として活用させていただくようにする。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40	○ かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の方々が長年診ていただいた医師との関係を継続させるため、各々の病院の医師にいつでも何でも相談できるように通院時面識を深めておく。	○	医師不在の場合、どのように対応していったらよいのか、事前に相談しておきたい。
41	○ 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	従来の医師が認知症に詳しいとは限らず、転院を申し出ることは難しいところある。	○	主治医の内科医に異常行動の相談をし、精神科等の受診を相談しやすくしていく。
42	○ 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護婦正准とも一人ずつスタッフに加わっており、現在一利用者の導尿を施行している。	○	看護師業務を充実させ、他スタッフに情報提供するようにしていく。
43	○ 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した場合、医師に面談申し入れ、治療状況、退院見込みについて相談した。	○	入院時、入院物品の揃えや、長くなる場合、医師等に説明をいただき状態を把握している。
44	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期について、現在ご利用者ご家族から相談はない。医師も含め、書面で医療連携加算申請時、ご家族、医師と相談し決めることを約束している。		
45	○ 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	要介護4の利用者2名に対して、症状の進みに応じて「できることできないこと」を見極め、できるだけ自立に向け支援している。終末期の利用者は今のところなく、検討や準備はしていない。	○	単独のホームのため、医師の考え方により今まで入院がほとんどである。ご家族も入院が望まれた。本人ご家族の要望や状況に応じて、医師と相談し終末期ケアについて支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	○ 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	病院や他施設へ移る場合、ご家族と一緒に相手先の相談員等と打合せを行っている。本人へはご家族と共に精神的に影響が最小限になるよう対応している。	○	ケースバイケースのため、誠実に対応を心がけていきたい。
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
47	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの人権を尊重することを第一に、プライバシーに配慮するケアについて、スタッフの対応の仕方をケース会議時話し合っている。	○	スタッフには入社時、秘密保持について理解してもらい、文書に署名捺印を求めている。スタッフの声かけ、対応についてロールプレイ等で勉強していきたい。
48	○ 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者一人ひとりの自己決定を大事にし、又、希望を言えるかどうかコミュニケーションを通して観察している。希望は実行し、信頼を持っていただくようにしている。	○	希望を直接言える利用者と、遠慮される利用者がおられる。遠慮される利用者と信頼関係を築き、希望の表出や自己決定できるよう支援していきたい。
49	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生き方を見極め、個別の対応を心がけている。寄り添うケアを常に心がけている。利用者の要望、希望を汲み取るよう努めている。	○	一人ひとりの要望、希望は、日常の何気ない会話や独り言、態度に表出される。落すことなく汲み取り、ケース記録に残しケアプランの盛り込むようにしている。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
50	○ 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理容は、町内の理容師が月1度出張してきてくれる。希望者多い得には2回にわたり散髪して下さる。男性の髭剃り残しは、毎朝介助している。他衣服等清潔を第一に希望を取り入れる。時節に合っているか気をつけている。	○	美容に対しては特定の利用者にご家族が対応されている。他利用者に希望ある場合、対応していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できることできないことを見極め、食材の皮むきや整理、盛り付け、配膳等毎食ごとに一緒に行っている。茶碗拭きも自らやって下さっている。	○	身体機能、理解力等よく見て、できることのみお願いしている。が、少しでもできそうなことには介助し、可能になるよう努めている。負担になっていないか見極めていき支援していきたい。
52	○ 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	食品の中で好きな物、嫌いな物、食べてはいけない物を把握し、食事が楽しみとなるよう心がけている。夜食を好まれる方には適量用意し、自室で楽しんでいただいている。	○	モーニングミール、ナイトミールを実施している。ナイトミールは特定の方だけのため、他利用者のニーズも汲んでいきたい。
53	○ 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	失禁、放尿あるため、トイレ誘導、声かけはこまめに行うようにしている。	○	布パンツ使用の方、膀胱炎になりやすい方には、トイレ誘導を多くしていくようにより努めています。
54	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日希望される方、ご家族からの要望を極力取り入れて施行している。拒否される方には、体調や気分、声かけに注意し、入りやすいよう心がけている。	○	入浴と聞いただけで暴れだし体に触られることを極力嫌う方がおられ、どのように施行したらよいか試行錯誤している。どのスタッフでも対応可能なように入浴介助のマニュアルを作りはじめている。
55	○ 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間1時間ごとの見守りで良眠を確認している。落ち着かれない夜はお茶、軽食等勧め見守りしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
56	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	理念「生き生きと穏やかに」をどの利用者にも持ち、どのようなことが心の張りや喜びにつながるか把握し、支援するよう心がけている。	○	役割を持つことがその人らしく生きることに重要で、一人ひとりに合うものを探っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○ お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族からお小遣いとして5,000～10,000円預かっている。ショッピング等外出時、買い物を楽しんでいただいている。個々にはご家族より渡されたお金を持っている方もいるが、不明にしたり他利用者にあげる場面あるため、ご家族と相談しながら見守っている。		
58	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出希望時等、なるべく外出の機会をつくるよう心がけている。ショッピングセンター、ドライブ等数人ずつ出かけたり、バス旅行を催している。	○	スタッフの都合で毎日外出とはいかないが、できるかぎり機会をつくりたい。
59	○ 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	2ヶ月に1度バス旅行を企画している。ご家族、ボランティア等の支援を得て季節に合ったところへ出かけている。	○	今後も続けていく。
60	○ 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい希望、手紙や荷物を出したい希望には、いつでもできるように対応している。		
61	○ 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	自室で話されるご家族、ホールで話されるご家族それぞれだが、楽しめるよう心がけている。	○	園内に特に談話室がなく、スペースもなく、不自由と思われるご家族もいるのではと思う。
(4) 安心と安全を支える支援				
62	○ 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	転倒を繰り返される利用者にご家族より了解を得て車イスへ補助ベルトを取り付けしていたが、現在不要のため外している。	○	利用者の身体状況に応じ、ご家族と相談しすすめていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	○ 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関はプッシュ式の自動ドアである。何も言わず出ていかれる方が2名おられるため、玄関に行かれることは外出希望と捉え、同行するよう気が付く手段としている。	○	園前が大型車が行き交うため、リスクを考えて施行したが、極力利用者の外出願望に同行するようにする。
64	○ 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の自力を考慮し、意欲を重んじ行動の観察をし、必要なところを介助している。	○	安全を考えるあまり、行動全般に声かけするスタッフもあるため、利用者の意欲を大事にするよう話していく。
65	○ 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	自室に果物ナイフやハサミ等置かれている利用者もあるが、状態に応じ見守りしている。掃除用具や加湿器も状態に合わせ設置している。		
66	○ 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故あった時は、小さい大きい事問わず、ヒヤリハットに記録しスタッフ全員で回覧し捺印している。ケース会議で再発防止に努めている。	○	・誤薬について、対策を実施し約1ヶ月になる。経過見て、不備なところは是正していきたい。 ・行方不明時、探すマニュアル作りを行う。
67	○ 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応について、ケース会議時時々ビデオ学習している。	○	誤嚥、転倒等初期手当て、救急車の手配等ケース会議時少しの時間を設け毎回行っていき、スタッフの統一を図りたい。
68	○ 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災訓練は年2回全スタッフ出勤で行っている。地震、水害等については1度も対策訓練等行っていない。	○	沼館消防団(隣の町内)の方々に来ていただき、防災装置等や建物について見ていただき、災害時、支援の協力を得ることができるよう、働きかけていく。当町内にも災害時の連絡網があり、ホームも町内会員であるため活用させていただくよう働きかけていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い - 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	歩行持、足のもつれや転倒の可能性ある方のご家族には、体の変化や対策について話し理解を持てるようにしている。	○	園内で起こりうるリスクを想定し、危険な所等整備していく。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 - 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタル測定(早朝6時、午後2時)や水分補給、食事量、排泄量の記録で異常を察知するようにしている。他スタッフの観察や本人の訴えを重視し、早期発見に努めている。		
71	○服薬支援 - 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとり様々な薬を服用されている。薬名も複雑で把握しにくい。そのため、効用、服薬方法等のマニュアルをつくり、薬のところへかけ、常時見ることができるようにした。	○	ケース会議時、一人ひとり、少人数ずつ薬について知識を持つ時間をつくり、情報の共有化を図っていく。
72	○便秘の予防と対応 - 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄表にて排便の有無、量を確認している。体質的なもの、水分補給の不足等考え、便秘されないよう見守っている。		
73	○口腔内の清潔保持 - 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の歯みがき誘導を実施している。義歯の洗浄や口腔内洗浄に声かけしている。	○	訪問内科医より、歯の汚れ多いと指摘あるため、電動ブラシを導入し一人ひとり施行していきたい。
74	○栄養摂取や水分確保の支援 - 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量は一人1日1200cc前後を基準にしている。食事量、摂取方法等個人に合ったようにし支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75	○ 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを作成し、予防に努めている。消毒スプレー、ハイター液のつくり方等、汚物室に貼り、いつでも見ることができるようにしている。	○	食事担当者用のエプロン(専門)を準備しているが、忘れる時も多いため、分かりやすい場所にかける等工夫していく。
76	○ 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	冷凍庫、冷蔵庫を利用すると共に、夜間まな板、包丁等ハイター液につけた後、洗浄機で熱湯消毒している。	○	ゴミ捨て場所が台所を通っていくため、汚物室から出ることができるようゴミ捨て場所の設置を工夫していく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
77	○ 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関の隣りの花壇を整備し、親しみやすい玄関廻りにしている。		
78	○ 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂には小さい庭をつけ、緑の木々を眺められるようにしている。利用者が好きなBGMをかけられるように設置している。	○	利用者がかけるCDとテレビの音が重なり騒々しい時あるため、スタッフは音の調整に敏感になるよう話し合いを持ちたい。
79	○ 共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下ソファー、他こたつを好まれる利用者に対応している。自由にごろ寝やおしゃべりができる空間をつくるよう努めている。	○	利用者のニーズを汲み取り、添っていくように努めていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には収納庫等全く何も設置していない。入所時使い慣れた馴染みの家具、ショーケース、テレビ等持ってきていただき、ベッドが布団が等配置含め、ご家族と利用者でつくっていただいている。	○	使われているうちに不都合ある場合、ご家族と相談し配置替え等し、気持ち良く過ごせるよう工夫していく。
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	自室内の換気は掃除時等毎日行っている。自室には換気扇がついており、必要時使用している。エアコンで夏、冬の温度調整を行っている。	○	毎夜間掃除時、窓やガラス戸を開け園全体の換気を1時間位行っている。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下手摺り、トイレ手摺りをつけ、車イスでも自立可能ようにしている。玄関より床にはフラットにし段差なく行動範囲を拡げられるよう考慮した。		
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	対話し理解し合うことが最も重要なことであるが、理解力は一人ひとり差があるため、話し方やフォローの仕方に気をつけ、トイレ等置き方の工夫等環境作りに工夫している。		
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	床がフラットなため、車イスで踊ったり、車イスレクダンスの方々が来て利用者と踊ってくれたりするスペースがあるため、活用していただいている。	○	車イスレクダンスの方々は3ヶ月に1度の割合で来て下さるとのことで楽しみを増やしていきたい。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない コーヒータイムをつくっている(9:00～9:30) おやつ時(3:00～3:15)
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 外出を拒否される方が2名おられる
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 医療連携をはかり、健康管理を第一に考慮している
91	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 家族のことで不穏になる場合がある
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ 大いに増えている ○ 少しずつ増えている ○ あまり増えていない ○ 全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○ ほぼ全ての職員が ○ 職員の2/3くらいが ○ 職員の1/3くらいが ○ ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ほぼ全ての利用者が ○ 利用者の2/3くらいが ○ 利用者の1/3くらいが ○ ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ほぼ全ての家族等が ○ 家族等の2/3くらいが ○ 家族等の1/3くらいが ○ ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

開設以来、月2回の音楽療法を取り入れています。声を出すこと、歌うこと、楽器を演奏することをセラピストのプログラムにより約40分間行い、利用者の表情、できないこと、できるようになったこと、分かること分からないこと等記録し、終了後カンファンスで問題、良い点等話し合っています。歌は皆さん好きですし、季節の歌では季節の小道具を用意してきて下さったり、見当識訓練や回想法に役立っています。何より一緒に歌うことで自己発散できます。発声練習により嚥下効果もあります。他、利用者がセラピストの方と馴染みとなり来られることを心待ちにしていること、スタッフもセラピストの真似をして体操、レク時に利用している等、又、夕食後の自室に戻る前に夕歌と称して5～6曲歌うこと等、音楽を取り入れています。